

花きの県別生産出荷概況(7月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	7月出荷見込み 千本		主産地	7月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
バラ	栃木県	12 (94%)	ローテローゼ レッドスター ノブレス	600 (95%)	500 (95%)	宇都宮 小山	30	40	30
	群馬県	20.1 (100%)	ローテローゼ、マレーラ ティネケ ノブレス ビビアン マイガール	990 (100%)	705 (100%)	前橋市 利根沼田 甘楽富岡	35	35	30
	千葉県	3.6 (100%)	サムライ ザ・テレサ ローテローゼ ノブレス	95 (100%)	76 (100%)	鴨川市 南房総市	33	33	33
	山梨県	4.1 (91%)	ローテローゼ サムライ	340 (103%)	310 (103%)	笛吹市 (御坂町)	40	30	30
	愛知県	42 (102%)	サムライ08 レッドスター アヴァランチェ+ フレアー ベイブ	3,200 (98%)	1,280 (98%)	JA愛知みなみ JA豊橋 JAひまわり JA西三河	40	35	25
トルコギキョウ	山形県	30.4 (101%)	ロジーナシリーズ、エクロシリーズ ピッコロシリーズ、セレモニシリーズ ファイナルシリーズ、ボヤージュシリーズ	1,179 (101%)	443 (101%)	JA新庄市 JA新庄もがみ JA山形もがみ JA鶴岡 JA庄内たがわ	20	40	40
	群馬県	9 (99%)	ピッコロサスノー、春うらら ダブルピンク キングオブスノー 一番星 あずまの碧波	91 (99%)	48 (100%)	利根沼田 邑楽館林 甘楽富岡 あがつま	40	30	30
	千葉県	5.6 (100%)	サカタ ミヨシ	5.6 (100%)	5.6 (100%)	旭市	40	30	30
		5.6 (100%)	ピッコロサーノ 春うらら ボレロシリーズ	5.6 (100%)	5.6 (100%)	館山市、鴨川市 南房総市(丸山、千倉)	25	35	40
	長野県		八重各品種 パステルムラサキ パステルピンク	2,000 (105%)	685 (105%)	北信 松本 伊那 諏訪	35	35	40
	宮崎県	2.6 (104%)	ボレロホワイト ダイヤモンドピーチ サルサマリン	15 (70%)	0 (0%)	宮崎中央 日向	100	0	0
ひまわり	千葉県	18.0 (100%)	サンリッチオレンジ	920 (100%)	690 (100%)	館山市 南房総市(丸山)	33	33	33
		0.7 (100%)	パイン オレンジ系	55 (100%)	16 (100%)	芝山町(丸朝園芸農協)	60	20	20
	北海道	19.6 (103%)	サンリッチオレンジ サンリッチパイン サンリッチレモン サンリッチマンゴー	7,587 (120%)	— —	岩見沢市 (JAいわみざわ)	30	30	40

鉄砲ゆり	群馬県	2.1 (100%)		50 (100%)	36 (100%)	前橋市	30	35	35
	長野県		オリジナル	480 (100%)	170 (100%)	佐久 伊那	10	45	45

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	改植作業はほぼ完了。 出荷量は昨年よりやや少なめ。	現状 上旬まではプライダル需要の引き合いがあったものの、中旬以降は減少。 父の日需要で黄色系が堅調な取引となったが、その他の色に関しては低調相場が続いた。 梅雨に入り病害虫の発生多く、品質差あり。
	平坦地・山間部ともに育成は順調で、品質も概ね良好。平年並みの出荷量を見込む。 改植後の生育もほぼ順調。品質も概ね良好で平年並みの出荷量を見込む。	見通し 大田花き 西南暖地の土耕産地は剪定に入り減少。 山形、宮城、大分の高冷地中心の入荷となる。大きな需要もなく、引き続き低調な取引が予想される。
	夏季剪定が始まり出荷量は減少する。	FAJ 高冷地産の出荷本格化する。相場は入荷次第の見込み。 落ち着いた流れとなる見込み。
	生育が順調で、切り花本数が多め。	第一花き 大きな需要もない時期で産地間による品質の単価差はでる。
	現状の出荷量は90万本/週。 今月は100万本/週で推移。 7月は6月より減少するものの、ヒートポンプの活用により極端に出荷量が減少することはなさそう。ただし、後半になるほど減少はする。	東日本板橋花き 高冷地(山形、青森、新潟)中心の入荷となる。
トルコギキョウ	7月出し作型の生育は、例年と比べてやや遅れているが、病害虫の発生は少ない。本格的な出荷は7月中下旬からで、品質は良好と見込まれる。	現状 高冷地はやや遅れ気味ではあるもののフリンジ系を含め各産地で始め品質も良く月末へ向け安定入荷。茨城は本格出荷となり例年並み。その他西南産地は遅れていた物が出揃い各産地潤沢な入荷。販売面では季節商材としての動きも出て来てはいるが数量増加と共に厳しい販売が続いた。
	生育は順調で、品質も概ね良好。平年並みの出荷量を見込む。 平坦地は7月上旬で2番花終了。	見通し
	一部で灰カビ病が発生。 神戸地区は6月から季咲きに切り替わり品質が向上。開花は1週間ほど遅れている。 南房総地区は6月7日出荷査定審査会を開催し選別基準を確認した。8月中旬までに継続出荷予定。	大田花き 天候の影響にもよるが高冷地は本格出荷へ向かい長野、山形中心に例年並みの安定した入荷となる見込み。販売面に関しては葬儀、プライダル需要主体に季節商材としての動き見込まれる。また東京盆の需要もあり例年並みの動きが見込まれる。
	昨年は低温遅れ傾向であったが本年は昨年程の遅れはない。7月上旬から数量が纏まり始め7月中旬～8月上旬が最盛期になる見込み。秋出荷への作付けが増える傾向	FAJ 高冷地産まとまる。暖地産終了し、中間産地の茨城産が増加してくる見込み。 第一花き 新盆・業務需要中心の流れ、中旬以降は大きな需要もなく厳しい販売。
	アブラムシ、コナジラミ類の発生が多い。	東日本板橋花き 高冷地出荷がまとまるのが新盆以降。
ひまわり	品質は良好。は種日によって開花が予定より早いほ場、遅いほ場があるが、全体の出荷量は安定している。 生育順調。選花基準を花径にして買いやすい本数(50本)を、すべての等階級で出荷している。 4・5月の天候不順で例年より1週間遅れで推移してきたが、6月は天候が持ち直し、生育は好転している。	現状 出遅れていた北海道産が数量増加。中旬の父の日需要に向け各産地数量が増えている。新潟方面など新規産地も出始めている。販売面では、父の日需要に向け活発な取引となるがそれ以降は落ち着いた取引となった。 見通し 大田花き 北海道、青森の高冷地中心の入荷となる。暖地の千葉、愛知などの出荷も増える見込み。販売面では花持ちの面などから例年通りの需要となる見込み。

鉄砲ゆり	個選は6月頭から出荷が始まっている(共選については未定)。葉枯れが見られる。	現 状	千葉・高知・岐阜県産よりの入荷、球根栽培ものの終盤となりホワイトフックスなど輸入球根ものを用いた鉄砲ユリ中心の入荷。業務需要中心に大きな需要は無く、例年並みの単価で推移。
	据置きは10日程度の遅れ傾向。新植は順調な生育。据置作型のピークは6月中旬～7月上旬の見込み。	見 通 し	大田花き 福岡・長野・秋田産の実生鉄砲ユリ中心の入荷。上中旬より新盆需要が高まり小売店・業務店中心に引き合いが強まる見込み。